

若神組十三日講だより

若神組十三日講
講長 藤井 成正

こんにちは！暑い夏でしたね。皆さんお元気でお過ごしですか？ 今回の第12号も「ご報告」や「お知らせ」が盛り沢山！今後も講活動にご協力頂きますよう宜しくお願いいたします。

活動のご報告

高岡教区講社連盟 総会、研修協議会

5月26日(金) 高岡会館

- 研修議題 「講社の現状と今後のあり方を考える」
- 講師 本願寺 参拝教化部 野間様
- 参加者 講長、副講長ほか 計12名

同日の功労者表彰状授与式で、十三日講からは太田地区の4名の方が授賞されました。今後ともよろしく願いいたします。

授彰者  五十嵐静夫さん  金平 正さん  斉田正二さん  井上文雄さん

研修次第

- ① はじめに-講社とは
 - ② 本願寺における講の源流
 - ③ 講社のこころ
 - ④ 本願寺と講社
 - ⑤ 講社の特異性
 - ⑥ 講社の名称
 - ⑦ 護り、伝えていく
 - ⑧ 統計資料(グラフや表)
 - ⑨ 講社活動(本山)写真紹介
- ※改めて講社について知る機会になりました。全国講社連絡会の活動方針等も示されました。

緯如上人御忌法要、参与会総会

6月11日(日) 井波別院 藤井講長、中嶋事務局長参加

高岡教区「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」

6月17日(土) 高岡会館

- 記念布教 特命布教使による
- 特命布教使 山田教尚師(東海教区鈴鹿組在仁寺)
- 参加者 藤井講長、高畑邦男理事、杉本 清理事、中嶋事務局長

第1部の勤行、記念布教の法要に続き、第2部では「さくら保育園園児による仏讃」「龍谷高校生徒によるヨサコイ」「仏教婦人会連盟によるコーラス」等、記念行事が行われました。

特別永代経法要団体参拝

- 場所 7月24日(月) 井波別院
- 法話 宮木美弥子師
- 参加者 50名



宮木美弥子師の法話



7/24 団体参拝 勤行の様子(井波別院)

高岡会館永代法要

7月19日(水)

講長、副講長ほか計10名の方々が参拝されました。

全戦没者を悼み平和を願うつどい2023

8月3日(木) 高岡会館

近代政治思想史研究者の中島岳志さん(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院副院長)の時宜を得た内容の講演で心新たに平和を願いました。

- 参加者 藤井講長、安藤 邦夫理事、中村 正根さん(東開発)

2023年度「北陸ブロック講社講員研修会」

8月22日(火)~23日(水)

- 場所 石川県:山中温泉『翠明』
 - 参加者 藤井講長、(柳瀬)田嶋 道夫さん・田嶋 信久さん、(東開発)中嶋 照子さん
- 両日とも勤行、講師 日下賢城師による講演のほか、二日目には「講社活動の現状と課題」をテーマとした協議会がありました。(全体の参加者77名、うち高岡講社連盟36名でした。)

十三日講の定例本山活動

◆5月講(降誕会) 5月21日(日) 西照寺

法話 光圓寺若院様



光福寺住職による
御消息の拝読

光圓寺若院の法話



光圓寺住職の法話



◆6月講 6月13日(火) 光乗寺

法話 光圓寺様

* 毎回動行に先立ち役員会を開催し今後の行事や講運営について協議されていますが、2回の臨時会議の内容を簡単にご報告いたします。

臨時会議の開催

※ 幹部会議 7月17日(月) 光圓寺

収入減による支出の見直し

※ 主な収入減少の要因

- ・春日地区の離脱や自然減少
- ・勝興寺のお花講取止めによる事業収入が無くなった

※ 支出の見直し(抜粋)

- ・もち米進納を9万円から6万円へ
- ・研修旅費の講負担を5割から3割へ
- ・本山講の経費(荘厳費等)の検討
- ・講員高齢化による慶弔費増加に伴い慶弔費見直し

※ 役員会議 8月20日(日) 光圓寺

1. 第4回講員研修旅行について

7/28(金)太田公会堂にて、今回企画担当である太田地区の五十嵐副講長、五十嵐理事、井上理事、中嶋事務局長の4名で、初回好評だった『布橋灌頂会』の式典見学に決定した実施案に基づき細部を協議した。

2. 慶弔事項の改正について

香典・生花、十三日講の講旗の活用等、全面的に見直して「講則及び細則」を作成する

今後の予定

(H29/9/24)「布橋灌頂会」

講員研修旅行のご案内 『布橋灌頂会』9月24日(日)

振り返れば、第1回講員研修会が今回と同じ『布橋灌頂会』でした。久しぶりの研修旅行で、あの感動をもう一度!



12月 もち米進納・本山参拝

日程やもち米進納時の本願寺参拝者の選定等は未定です。

12月講(終い講)

日時:12月13日(水) 午後2時
場所:称名寺(砺波市東開発)

十三日講の5ヶ寺紹介(最終)

別所山 光圓寺(砺波市久泉)

光圓寺は、文明4年(1472)明賢(俗名:平田新七郎)によって開かれた。新七郎は戦乱の世を憂い別所の隠里に住むも、赤尾の道宗と共に吉崎御坊の蓮如上人を尋ね、浄土真宗のご教授を賜り、上人より、法名「明賢」寺号「光圓寺」「御持仏」上人直筆の「十字名号」を賜り、別所の地に道場を開いたのが光圓寺の始まりである。光圓寺の山号が別所山の所以である。

天和2年(1662)7世祐貞の頃、西本願寺より「阿弥陀如来立像」を授かる。8世見隆の頃、勝興寺(現在国宝)より別所山の山号額を授かる。この頃は別所の地から久泉の地に移っていたと思われる。



光圓寺 令和元年6月撮影

以後、代々住職が梵鐘、庭園、鐘樓堂、庫裏を完成しながら、お念仏を喜ぶ人々を育てた。 (若神組門推協だより第17号等より抜粋)

事務局より

ホームページを見てみましょう!



講社で検索お知らせから講社係がゆくを選んでください。

+++ あとがき +++

70オになったら好きな事をすると言って実行している先輩や友人がいる。今70オになって、とてもマネは出来ないが、せめて嫌な事は少なくていきたい。両親は信心深い人達であった。それもマネ出来ないが、時流に逆らわず自分流で行けたら良いと勝手に納得している。 M

